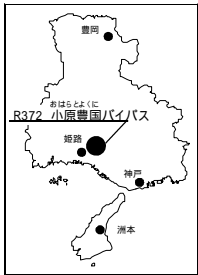
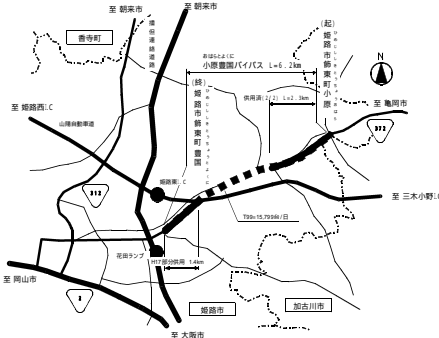


再評価結果（平成18年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：鈴木 克宗

事業名 国道372号道路改築事業 小原豊国バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 兵庫県 延長 6.16m			
起終点 自：姫路市飾東町小原 至：姫路市飾東町豊国					
事業概要 一般国道372号は、京都府亀岡市を起点とし、兵庫県姫路市に至る延長約10.4kmの幹線道路である。小原豊国バイパスは、播磨地域と京阪神間を結ぶ重要路線にあって、幅員狭小区間であり、姫路市市街地東部への流入交通によって混雑の著しい区間についてバイパス整備による渋滞解消、山陽自動車道姫路東ICへのアクセス機能の確保を目的とした姫路市飾東町小原から同町豊国に至る延長6.2kmの2車線道路である。					
H8年度事業化	S38年度都市計画決定 (H8年度変更)	H8年度用地着手	H8年度工事着手		
全体事業費	80億円	事業進捗率	57%	供用済延長	3.72km
計画交通量	12,400台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年 平成17年	
	2.6	33/84億円 (事業費：28/79億円 維持管理費：5/5億円)	215/215億円 (走行時間短縮便益：210/210億円 走行費用減少便益：5/5億円 交通事故減少便益：0.04/0.04億円)		
感度分析の結果					
事業の効果等					
災害への備え（兵庫県地域防災計画及び緊急輸送道路ネットワーク計画に位置づけがある）他8項目					
関係する地方公共団体等の意見					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
平成9年度に山陽自動車道が全線開通し、高速道路網への接続性が向上した。 平成8年度～12年度にかけて担手育成基盤整備事業として実施された圃場整備事業と併せて小原バイパス工区の用地買収を実施した。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
H8年度から小原バイパス工区に着手、H12年3月に約1.7km、H14年5月に約0.6kmを供用（小原バイパス工区概成） H12年度から豊国バイパス工区に着手、H17年10月に終点～山陽自動車道間の約1.4km、H18年度末に残る山陽自動車道～姫路セントラルパーク前交差点間の約0.8kmを供用予定（豊国バイパス工区概成）					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
用地買収の遅れから豊国バイパス工区の完成が約1年遅れるが、H17年度から山崎八重畑現道拡幅工区の用地買収に着手することで、計画どおりH24年度の事業完了を見込んでいる。					
施設の構造や工法の変更等					
対応方針					
対応方針決定の理由 事業の必要性は事業採択当時と何ら変わっておらず、計画どおり事業が進んでいることから、継続して事業を実施する必要がある。					
事業概要図					
					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。